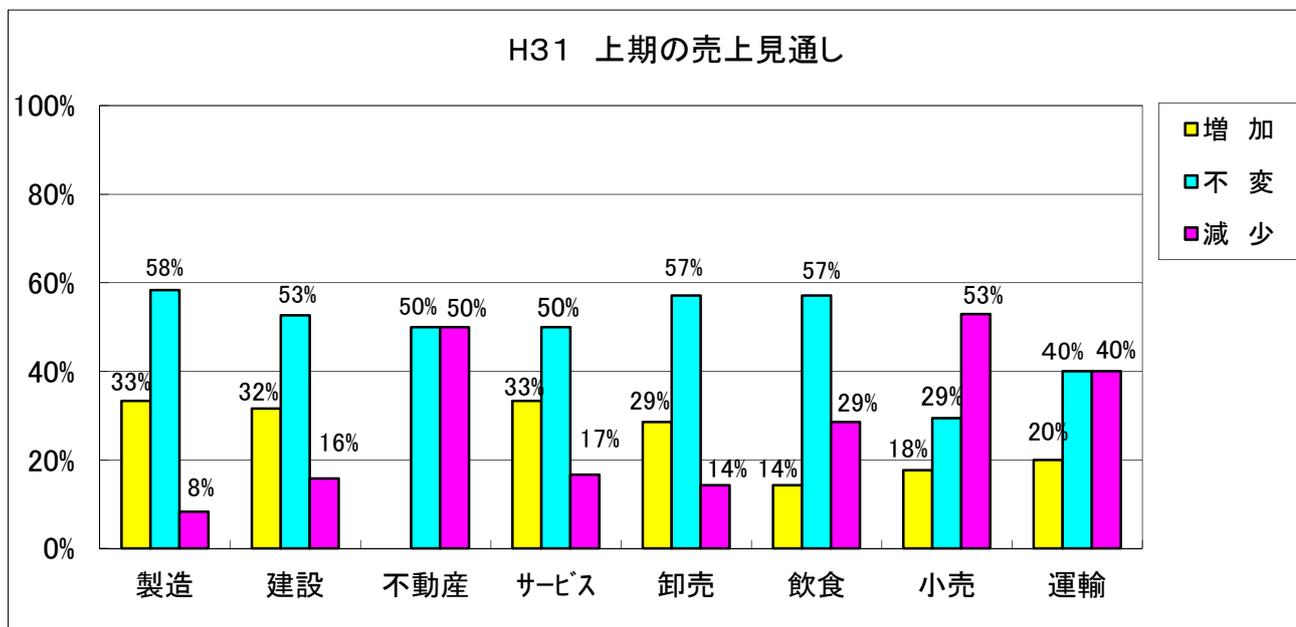


調査2 平成30年7月～12月を基準とした平成31年1月～6月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

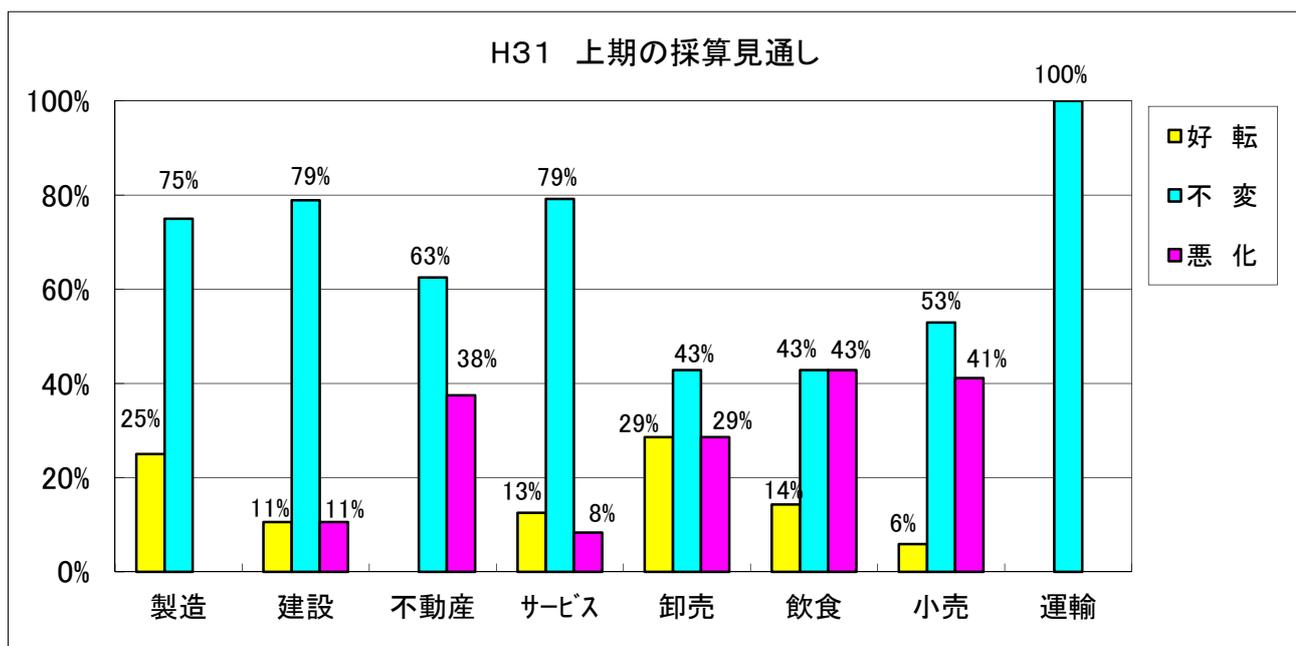
①売上見通し

全体で見ると「増加」25%（前回40%）、「減少」25%（前回20%）となっており、業種別で見ると「増加」の見通しがあるのが製造業（33%）・サービス業（33%）となっている。一方、「減少」の見通しが強いのが小売業（53%）であった。



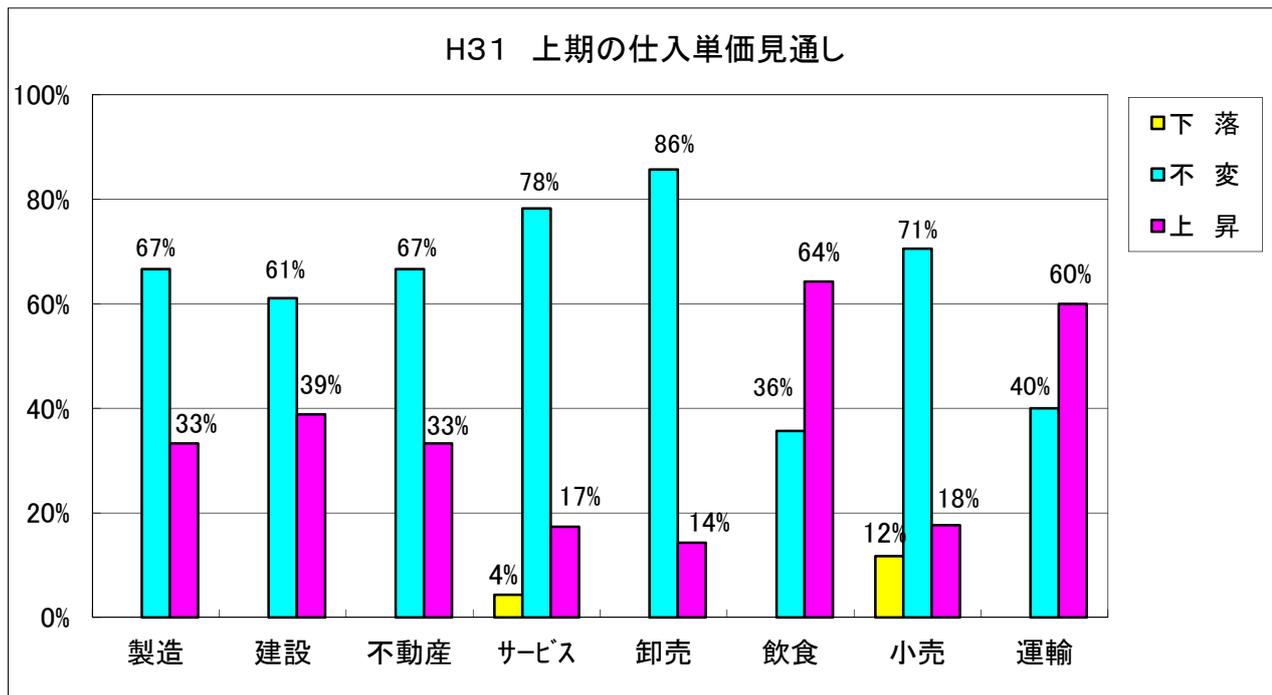
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が12%（前回20%）、「不変」が68%（前回63%）、「悪化」が20%（前回17%）となった。業種で見ると、「悪化」の見通しが多いのが飲食業（43%）、小売業（41%）となっている。



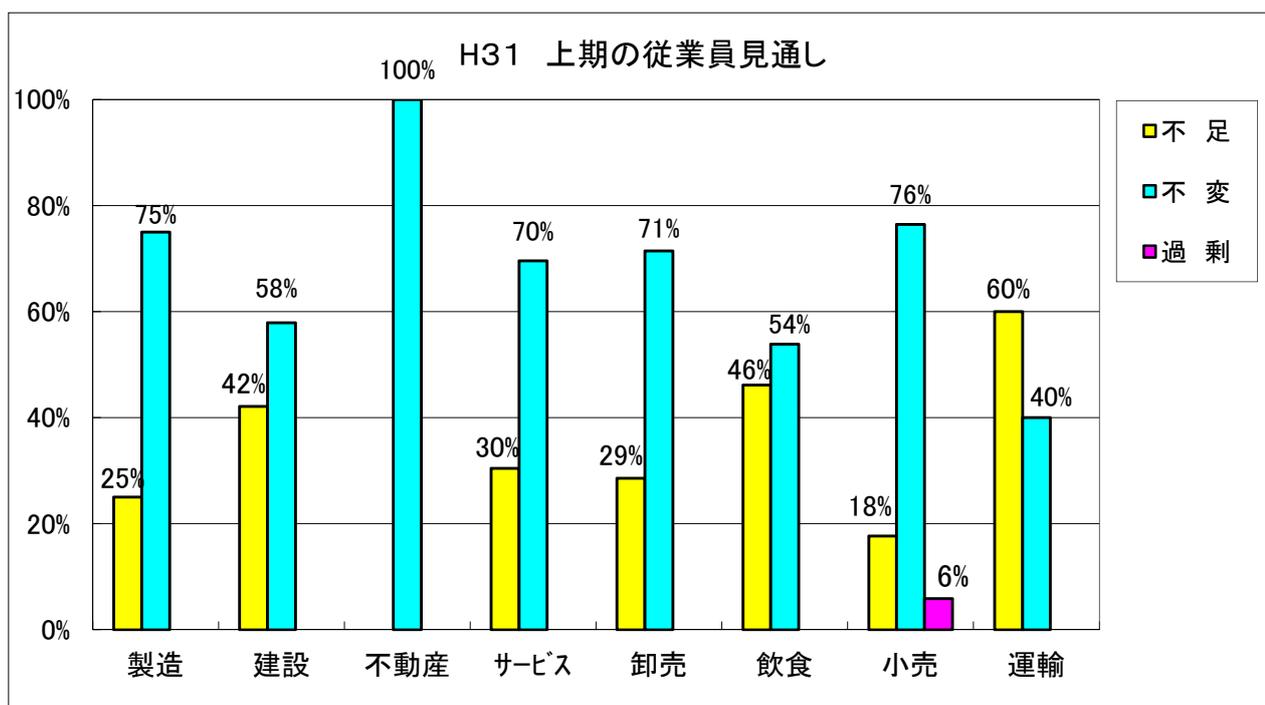
③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が65%（前回73%）、「悪化」が32%（前回27%）の見通し。業種別では「上昇」が高いのは飲食業64%（前回57%）、運輸業60%（前回40%）と前回調査と同じ結果であった。



④従業員の見通し

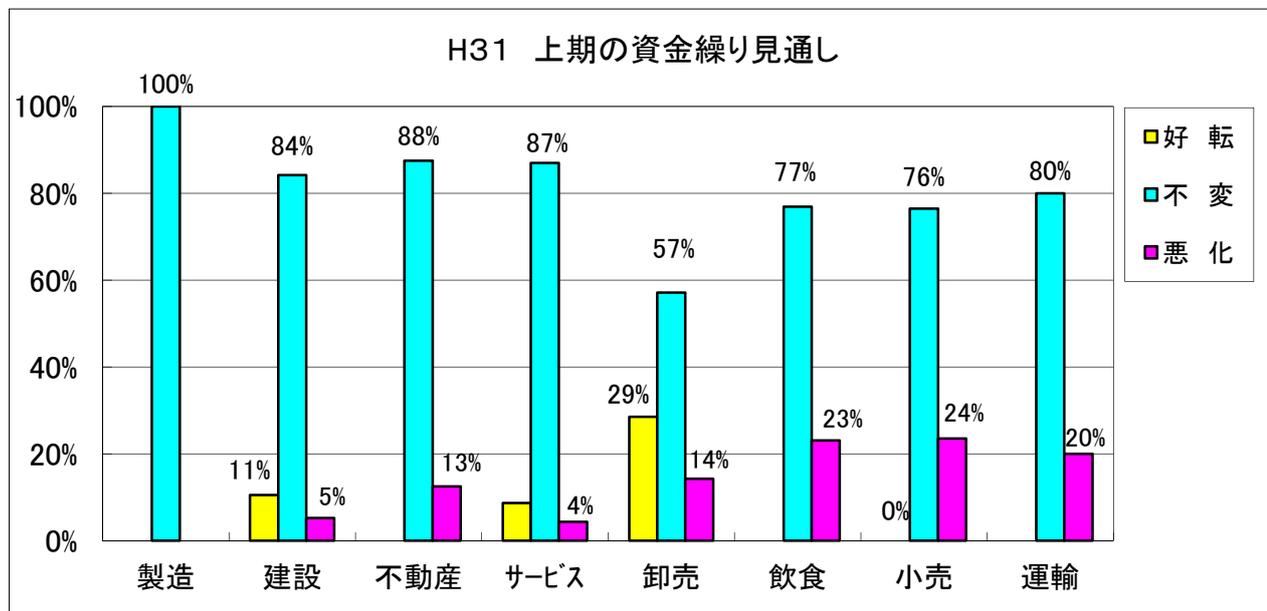
全体的には、「不足」が31%、「不変」が68%、「過剰」1%であった。業種別でみると「不足」との見通しが高いのが運輸業60%（前回80%）、飲食業46%（前回14%）となっており、不動産業以外の全業種で不足との見通しがでている。



⑤業界の景気動向見通しについて
P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が83%と多く、「悪化」が12%、「好転」が6%であった。資金繰りが「悪化」の見通しが高いのが小売業24%(前回14%)飲食業23%(前回29%)であった。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(59%)が多く、続いて「融資無し」(22%)、「緩やか」(15%)「厳しい」(4%)となっている。業種でみると、「緩やか」の回答が多かったのが運輸業(40%)、「厳しい」との回答が多かったのが卸売業(20%)であった。

